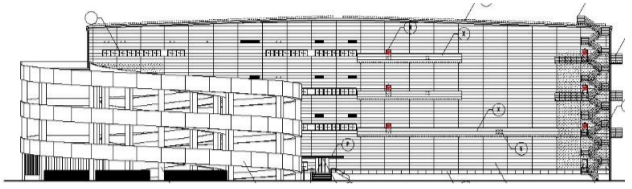


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮市千秋町・特定流通業務施設	階数	地上4F
建設地	愛知県一宮市千秋町小山宇東仲田27番地6筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域,法22条指定区域,特定都市河川流域(新川)	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年9月22日
敷地面積	29,684 m <sup>2</sup>	作成者	三好 星空
建築面積	19,034 m <sup>2</sup>	確認日	2021年9月24日
延床面積	69,795 m <sup>2</sup>	確認者	定森 淳一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)												
<p><b>BEE = 1.6</b> ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>46</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>46</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>46</td> <td>78%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	92 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%	②建築物の取組み	46	78%	③上記+②以外の	46	78%	④上記+	46	78%	<p>Q2 サービス性能 5</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>
①参照値	92 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%												
②建築物の取組み	46	78%												
③上記+②以外の	46	78%												
④上記+	46	78%												

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.8</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.7</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.5</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア = 2.5</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.8</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.8</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 <b>3.8</b></p>	<p>③敷地内の緑化 <b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>29.3 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用 <b>3.7</b></p>	<p>④地域材の活用 <b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



3 対応性・更新性				0.2	4.2	0.29	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			積載荷重4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.6	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.53	3.0	5.0	0.49	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	2.5	0.20	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			省水型便器、自動水栓、節水コマを過半採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	4.0	0.63	-	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			Fc=36+490級、SM490MA、BCP325採用	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生クワッシュラン(舗装)/ソーロン(天井)/ビニル床シート(床)	3.0	5.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なユニット部材の採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			防水工事のプライマー	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3	-	4.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率78%	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用がなく敷地内から全く大気汚染物質を発生しない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪・駐車場、荷捌用車両スペース、複数出入口の確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	1.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)一宮市千秋町・特定流通業務施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12
			外構緑化:29.3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

# ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮市千秋町・特定流通業務施設

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生利用が可能な資材を多く採用し環境に配慮</li> <li>・更新、維持管理のしやすい設計</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室に適した内装材や設備機器の採用により汚染物質を削減し空気質環境に配慮</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高やリフレッシュスペースの確保、防汚性の高い建材を採用等快適性に配慮</li> <li>・給排水管に長寿命材を採用</li> <li>・階高や空間の形状にゆとりをもたせ将来の用途変更可能性に配慮</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の不導入や植栽条件に応じた緑地づくりにより緑地の質を確保し生物環境に配慮</li> <li>・敷地内に風を導き、緑地を確保することにより暑熱環境の緩和に努めている</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BPI<sub>m</sub>=0.60</li> <li>・BEI<sub>m</sub>=0.53</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省水型便器、自動水栓、節水コマ等の節水器具を過半採用</li> <li>・主要構造部に強度の高い材料を使用し材料使用量を削減</li> <li>・グリーン購入法における特定調達品目やエコマーク商品を採用し非再生性資源の削減に配慮</li> <li>・解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なユニット部材の採用</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃焼機器の使用がなく敷地内から全く大気汚染物質を発生しない</li> <li>・建築物の高さや形状を工夫し敷地外への熱的な影響を低減する対策</li> <li>・駐輪駐車場、荷捌用車両スペース、複数出入口を確保し交通負荷を抑制</li> </ul>
その他	特になし